

保険者を訪ねて

元気・活力・創造

のまち

健康都市こうし



《合志市の概要》

人 口	62,104 人	
国保被保険者数	12,087 人	
	一般	12,035 人
	退職	52 人
後期高齢者数	6676 人	
世 帯 数	24,327 世帯	
	国保世帯数	7,074 世帯
医療機関等数	医科	40 機関
	歯科	20 機関
	調剤薬局	22 薬局

(平成 30 年 10 月末現在)

担 当 課		
保険年金課	職員	非常勤職員等
保険年金班	7 人	12 人
健康づくり推進課	職員	非常勤職員等
健康推進班	14 人	5 人

合志市は、県都熊本市の北東部に位置し、総面積は 53.19 平方キロメートル（東西約 12km、南北約 8km）です。

北部地域は阿蘇の火山灰が降り積んだ黒ボクと呼ばれる火山灰性腐植土に覆われた広大な農地が広がり、県内有数の穀倉地帯となっています。

住宅地と商業地は、以前から国道・県道や熊本電鉄沿線に形成され、熊本市に隣接した南西部一帯に新市街地を形成しています。

今回は、合志市の国保の状況や特定健診の取り組み、合志市独自の活動についてお話を伺いました。



－医療費適正化のためにどのような取り組みをされていますか。

合志市では、毎年4月の被保険者証一斉更新時に「ジェネリック医薬品希望カード」の同封を行っています。この他にも、年に2回（5月・11月）「ジェネリック医薬品利用差額通知」を送付するとともに、ジェネリック医薬品に関する記事を掲載したパンフレットを活用した啓発を行い、先発医薬品からジェネリック医薬品（後発医薬品）への切り替えを促進しています。現在では、ジェネリック医薬品が定着しつつあり、数量シェアで平成28年度68.4%、平成29年度71.3%となっています。国や県が目標とする80%を達成できるよう、国保連合会が提供するデータを確認し医療機関等と連携を図り、シェア向上に励まなければいけないと考えています。



－保険税収納率向上のための取り組みを教えてください。

国民健康保険税の現年分収納率は、平成27年度93.51%、平成28年度94.96%、平成29年度95.14%と年々上昇しています。その要因としては、口座振替の推進、平成26年4月に導入しているコンビニ納付など、納付できる環境が整備されたことが大きいと考えています。下表（国保種目別納付件数）のとおり、金融機関窓口納付件数は年々減少している一方で、コンビニ納付件数が伸びています。このことから、納付できる時間に制約がないコンビニ納付利用者が増えていると考えられます。

その他にも、電話による催告、窓口や文書による納税相談の勧奨（短期被保険者証更新時の6・9・12・3月に納税相談開催）、税務課・保険年金課での合同臨戸なども行い、初期滞納時点での対策に力を入れています。

【国保種目別納付件数】

	口座振替件数	金融機関窓口件数	コンビニ件数
平成27年度	23,291	10,231	6,912
平成28年度	22,689	9,015	8,038
平成29年度	22,962	8,078	9,048

－保健事業の取り組みを教えてください。

熊本県内の各圏域では保健所主体の「糖尿病保健医療連携会議」が行われています。合志市は菊池圏域糖尿病保健医療連携会議に属し、この連携会議には、糖尿病専門の先生や薬剤師、歯科の先生などに出席していただいています。その中で、「市町の保健師と先生方の連携がとれるツールが必要」との声から、平成26年度に「菊池地域糖尿病関係連絡台帳」が作成され利用開始しました。現在、この台帳は菊池圏域内54の医療機関の同意のもと「特定健診受診後に医療機関を受診していない人を医療機関へつなげる」「医療機関からの保健・栄養指導の依頼に対し、訪問指導を実施する」などに活用しています。

また、これまで以上に医療機関と市町の保健師の連携を図ることを目的に、保健所主催で年に一度研修会が開催されています。研修会は、賛同医療機関だけでなく圏域内全ての医療機関に「菊池地域糖尿病関係連絡台帳」の周知だけでなく、医療機関とより良い連携づくりをするための場と考えています。

その他にも、合志市では平成 26 年度から**国保ヘルスアップ事業^{*1}**を実施しており、特定健診未受診者対策、特定健診受診者へのフォローアップ（医療機関へのつなぎ）、早期介入保健指導事業（生活習慣病の 1 次予防）、生活習慣病重症化予防、**糖尿病性腎症重症化予防^{*2}**、地域包括ケアシステムを推進する取り組みを行っています。

国保ヘルスアップ事業^{*1}

被保険者の健康の保持増進、疾病予防、生活の質の向上等を目的に、KDB等の被保険者の医療情報や健診情報等データを電子的に用いるツール並びに、熊本県国民健康保険団体連合会に設置された学識経験者等から構成される支援・評価委員会を活用し、**保健事業をデータ分析に基づくPDCAサイクルに沿って効率的・効果的に実施する事業のこと。**

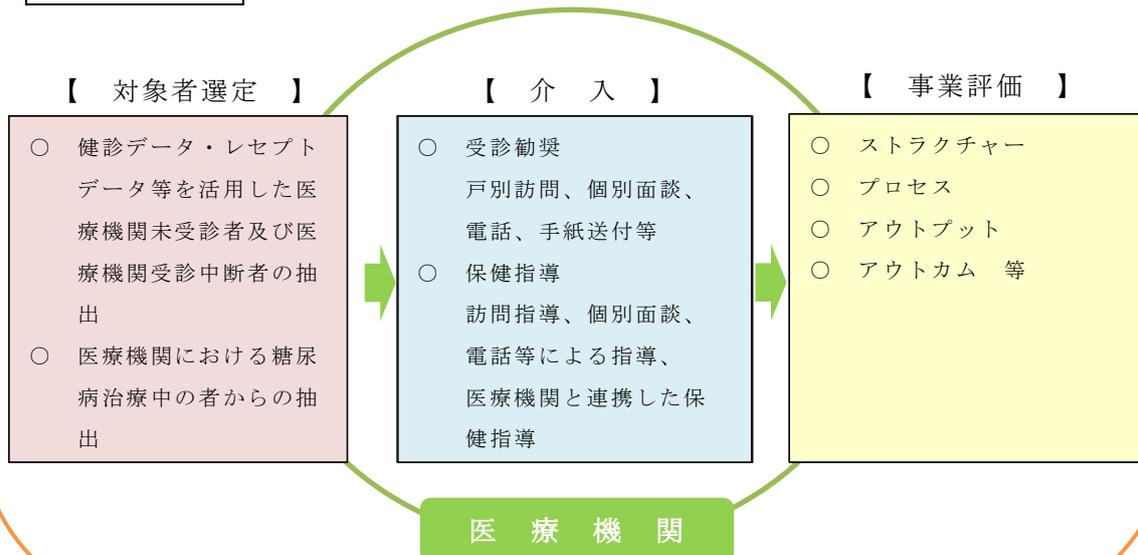
糖尿病性腎症重症化予防^{*2}

糖尿病性腎症の患者であって、生活習慣の改善により重症化の予防が期待される者（人工透析導入前段階の者）に対して、**合志市と医療機関等が連携して実施する予防事業のこと。**

取り組み内容

- (1) 健康診査・レセプト等で抽出したハイリスク者に対する受診勧奨及び保健指導
- (2) 治療中の患者に対する医療と連携した保健指導
- (3) 糖尿病治療中断者や健診未受診者に対する対応

取り組みイメージ



ー特定健診の話が出ましたので、特定健診の取り組み（未受診者対策等）について聞かせてください。

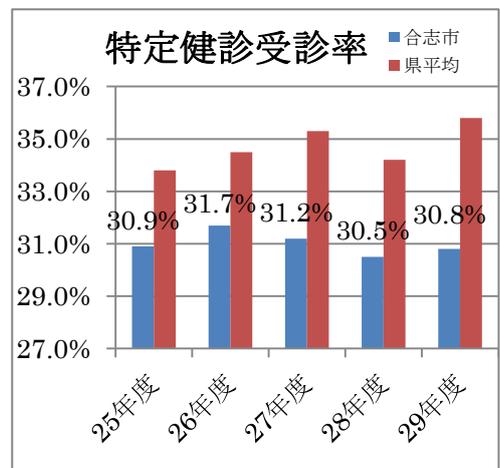
合志市では、特定健診を特定健診実施機関に委託し、集団健診・個別健診を実施しています。

特定健診を実施するうえで重要視していることは、医療機関と適切な連携を図ることです。40歳から74歳までの被保険者の方は、治療中であっても特定健診の受診対象者であることから、かかりつけ医から本人へ健診の受診勧奨をしていただくよう、医療機関へ説明の機会を設けています。

また、本人同意のもと、合志市が診療における検査データの提供を受け、特定健診結果のデータとして円滑に活用できるよう医療機関と連携を深め、さらに、菊池地域糖尿病関係連絡台帳や糖尿病連携手帳を活用し、医療機関だけでなく薬局との連携も深めています。

平成29年度の特定健診受診率実績は30.8%で、県平均35.8%を下回っており伸び悩んでいる状況です。そこで、特定健診の受診率向上を目標に掲げ、「40歳及び初めて国民健康保険で特定健診を受診する被保険者を対象に特定健診無料クーポンの配付」「平成29年度糖尿病管理台帳を基に対象者訪問による受診勧奨」「平成30年度特定健診未受診者で、平成29年度の健診結果が血圧Ⅱ度以上でHbA1c6.5%以上の対象者へ訪問による受診勧奨」「協力医療機関において生活習慣病を治療中の被保険者で、本人同意によるみなし健診の実施」など、国保ヘルスアップ事業の取り組みにも挙げている特定健診未受診者対策を中心に取り組んでいます。

少しでも、多くの方に特定健診を受診していただけるよう今後も職員一同アイデアを出し合いながら受診率向上に努めます。



ー健康増進を目的としたイベント等について教えてください。

厚生労働省が実施する平成28年国民健康・栄養調査の結果で、「糖尿病を強く疑われる者」は約1,000万人と推計され、平成9年以降増加していることが分かっています。

糖尿病は自覚症状がないまま進行し、腎不全(人工透析)などさまざまな**合併症***を招く病気で、本人の生活の質が低下するだけでなく医療費負担の増加にもつながります。

合志市の特定健診結果で糖尿病型とされる人の4割が未治療者であり、糖尿病に関しての意識が低いことが考えられるため、平成29年度から地域住民を対象とした「糖尿病予防講演会」を年2回開催し、「住民が正しい知識を身に付け、自身の生活を見直すことで、糖尿病発症予防や重症化予防を図る」ことを目的に講習会を開催しています。

今年度は2回の講演会も盛況のうちに終了しましたが、来年度も予定しているところです。みなさんの参加をお待ちしております。

**自覚症状が少なく
合併症を引き起こす糖尿病**

食事を取ると、腸で消化された糖質がブドウ糖になり、血液に流れ血糖となります。血糖は膵臓から分泌されたインスリンによって細胞のエネルギー源として使われます。このインスリンの働きが悪くなると高血糖になり、糖尿病を発症してしまいます。

過度に増えた血糖は血管を傷つけ、血管障害や動脈硬化を進行させます。自覚症状はほとんどなく放置してしまいがちですが、やがて深刻な合併症が全身に起こるため、注意が必要です。

糖尿病合併症例※

糖尿病網膜症

成人の失明原因の第2位です。

認知症

糖尿病があると認知症は2倍発症すると言われています。

糖尿病腎症

透析導入原因疾患の第1位で、人工透析費用は年間約500万円かかります。

脳梗塞・心筋梗塞・狭心症

糖尿病があると大血管の動脈硬化も進み、重篤な障害が残ったり死に至る場合もあります。

糖尿病神経障害

しびれ、痛み、感覚低下をおこします。血行不良により最悪の場合には足を切断することになります。また、自律神経障害も生じます。

歯周病

糖尿病があると歯周病を発症しやすく、重症化もしやすいです。また、歯周病も糖尿病を増悪させます。

